

ゆめ通信



2~3 松本大学 REPORT 地域づくりコーディネーター養成講座

4 Signとは? 健聴者にも知ってもらいたい

5 地域発 地域から松大生へ 

考房「ゆめ」から3つのプロジェクトが受賞

6~7 学生ゆめ ~ゆめひろば in 梓乃森祭~

8 Information

考房「ゆめ」は社会貢献活動を行う学生を支援しています。地域の方からの「お願い」を松大生とともに創造しています!



地域づくり考房「ゆめ」キャラクター こう坊



学校法人松商学園

松本大学

“ゆめ”の由来…結芽「ニーズの芽を結ぶ場所」+夢+遊眼「遊び心の視点を持つ眼」

地域づくり考房「ゆめ」は、大学で学んだ知識や技術を学生が地域づくりの中で実践的に活かしていくことを目指しています。

松本大学 REPORT

地域づくりコーディネーター養成講座



気づきから築きへコーディネーション

2009（平成 21）年度から、松本大学では「松本大学地域づくりコーディネーター養成講座」を開講し、「地域づくりコーディネーター」の資格を認定しています。

この講座の目的は、地域の人材や資源をコーディネートする人材を育成していくことにあります。

受講者は、地域での実践を経験し実際にコーディネーターに携わる、あるいは携わろうとする社会人と地域活動を行う学生です。「知る」（基礎講座）、「考える」（専門講座）、「育む」（実践講座）、「高める」（プレゼンテーション）といった一連のプログラムを受講し、自らのテーマに基づき現場での実践を行い、課題の解決方策についての考察をまとめたレポートと、審査会

でのプレゼンテーションおよびグループワークにより、「コーディネーション力」が認められた場合に「地域づくりコーディネーター」の資格が認定されます。

また、学生は養成講座受講に合わせて「地域活性化プログラム対応科目」から 20 単位を取得することで、準認定資格を取得できます。これまでに、第 1 期認定者は 4 名（受講者 30 名）、第 2 期は 5 名（受講者 16 名）、第 3 期は 6 名（受講者 13 名）となっています。

今、地域の課題は多種多様で、課題解決をするためには個人・団体・組織・機関が、分野・業種を超えてつながっていくことが求められます。地域づくりコーディネーターは、地域資源（ヒト・モノ・コト・情報）を対等につなぎ、活動を活性化させる“地域づくりの要”です。

本講座コーディネーター 福島 明美

第3期
認定者

NPO代表の立場で

大学生が主体的、継続的に活動するBBS運動をコーディネート

BBS 運動は非行に走ってしまった少年少女と同じ目線、立場で接する事で立ち直りを支援する活動ですが、近年は若者の人材不足が課題となっています。

今回の講座では、会員の半数以上が松本大学学生・卒業生であるという特徴を生かし、学生が主体的に BBS 活動を展開し、継続するしきみを整えることをテーマとしました。

打ち合わせの場を松本大学にしたり、会員募集や活動を全面的に任せたりと学生が活動しやすい環境を作ることにより、自主的な行動が多くみられるようになりました。大学内での募集が成功し、4 月から 5 名の 1 年生会員が活動に参加した事は、先輩から後輩へ活動をつなぐ第一歩となりました。

新たな活動を始める事も大変ですが、継続していく事もまた大変。受講によりこれまでの活動を見直す事ができ、先輩から引き継いできた土台を大切にしながら、その時の状況に合ったコーディネートをしていく事が必要だと感じました。非行のない明るい社会の実現を目指し、次の世代にこの運動をつなげたいと思います。

中身の濃い講義、丁寧なご指導、ありがとうございました。

小松 寿美代（松本 BBS 会）



運動指導士の立場で

運動による健康のまちづくり
運動実践者の拡大

赤津 恵子（平成 24 年度卒業生）



NPO事務局長の立場で

駒ヶ根を吊るし飾りでいっぱい。
おばあちゃんたちの挑戦！

今井 ちおり



NPO代表の立場で

信州まつもと空港で
勝手におもてなしたい

吉國 明夫



行政職員の立場で

かみすげさわ区防災意識向上計画をコーディネート

日頃考えているのは、一人でも多くの市民にまちづくりに関心をもってもらい、主体的に参画してもらうにはどうしたら良いのだろうかということです。その取り組みには、まず自分の住んでいるまち（自治区）をよくすることから始めようと思いました。みんなが自分の住んでいる身近な地域に関心を持ち、自分の地域をよくしようと行動したら、それは大きな動きになって市全体がよくなっていくだろうと考えました。そして、その切り口として選んだのが「防災」でした。

私はコーディネーターとして、気づきを与え、自ら学べる仕掛けをつくるよう心掛けました。そして、講座の中で学んだ「関心」⇒「参加」⇒「発見」⇒「理解」⇒「創造（創出）」の「発展の階段」を意識したプログラムを組みました。

幸いにして私の住む自治区には大きな災害危険箇所はありません。大地震も経験したことはありません。しかし、この経験値の少なさが実は大きな落とし穴となることが分かりました。起こりうる災害を想定し、どのように備えるか、住民に想像させることが大事なことだったのです。防災講演会を開催して関心を持たせ、直下型地震を想定したワークショップを行い、防災訓練につなげました。

1年任期の役員に理解してもらうのは容易なことではありませんが、今後も区長、区議会、区内の諸団体に働きかけ、「災害に強いまち、上菅沢」を目指して、身近な地域のために貢献したいと考えています。

河西 茂廣（茅野市企画総務部パートナーシップのまちづくり推進課）



企業職員の立場で

おてんとさんぽプロジェクト～協働のチカラ～

私の勤める『共和堂』は、辰野町で創業 86 年を迎える新聞販売店です。地元の方に喜んでいただくイベントを過去 10 年以上開催し、3 年前から趣向を変え『クラフト & 産直市 おてんとさんぽ』を開催しています。

第 2 回から地域の様々なジャンル（学生・主婦・農家・行政・クラフト作家・企業）の人が実行委員となって地域を元気にするイベントへと変化しております。それぞれの個性が生き、年々充実した内容となり来場者も増え町でも恒例のイベントとして定着するようになりましたが、実行委員が増えれば立場や年齢が異なる人も増え、話し合いの中で全ての人を活かすことが難しくなっていました。

そこで、本講座を受講。コーディネーターとしての学びを得たことにより、積極的に大人の中でアイデアを出しづらかった学生が KJ 法によりポストイットにアイデアを書いたり、ワークショップでリラックスしながらまとめていく事で全員のアイデアが盛り込まれた内容になったりと良い効果が現れました。今後は学びを活かし多様な立場の人が集い町を元気にする『場』が闊達となるようなつなぎ役として活動していきたいと思っています。

宮原 陽子（共和堂）



第3期 準認定者

学生プロジェクト活動をコーディネート

聴覚障がいについての理解と啓発活動 “Sign”

私は考房『ゆめ』プロジェクト Sign で聴覚障がいや手話について学び、聴覚障がいについての理解を多くの方々に広める活動をしています。今回の講座参加で、私たちのプロジェクトには地域とのつながりが少ないことやメンバー間のモチベーションの違いからくる活動への姿勢が課題として挙げられました。先生や社会人受講生に相談し、学生とは違う目線での意見を聞き、この課題解決に向けて私自身がコーディネーターとして何ができるか勉強してきました。そして今までの Sign に何が足りなかったのかに気づく事ができました。

私自身が各活動に積極的に参加し、火つけ役になる事を意識しました。今、徐々に Sign の活動も活発になってきたと思います。今回の学びは私自身の成長にもつながりました。今後も Sign のメンバーとして、そして来年度引き受けた考房『ゆめ』学生スタッフリーダーとして、学びの中で得たコーディネーターの視点を活かし活動していきたいと思っています。

原 侑子（観光ホスピタリティ学科 3 年）



★お知らせ★

松本大学地域づくり コーディネーター養成講座

フォローアップ講座「実践編」

- 申込み期間 11月15日～12月15日
(所定の申請書・企画書提出)
- 開催時期 12月～3月
- 対象者 地域づくりコーディネーター養成講座
最終審査会へ出席された全受講者
- 内容 実践講座のみ(企画書に基づいた
コーディネーター実践と月1回の
講座開講予定)
- 受講料 1万円
- 審査会 3月末を予定

サイン Signとは?

手話に興味を持ったメンバーが集まり、

- 聴覚障がい者のデイサービス 「れんげ草」
- NPO 法人 松本市聴覚障害者社会参加支援協会
- 長野県松本ろう学校

上記の3つの団体と交流しながら聴覚障がいについて学び、その学びを健聴者に伝える活動をしています。この活動が、健聴者の方たちに手話や聴覚障がいについて知ってもらえるきっかけになることを期待しています。



健聴者にも知ってもらいたい

～聴覚障がいの理解を広げる試み～

松本大学“^{あずさの}梓乃森祭”にれんげ草の方をお呼びし、ものづくりを通して健聴者に聴覚障がい者と交流していただく場を提供しました。最初はお互い積極的にコミュニケーションをとる様子は見られませんが、次第に身振り手振りで接し、手話を教え、教わったりしていました。健聴者の方にとってこの体験が手話や聴覚障がいの関心へとつながれば嬉しいです。



活動
その1

れんげ草の皆さんとの交流



活動
その2

松本ろう学校文化祭「はと祭」の準備手伝い

本校の文化祭「はと祭」の準備に、Signのみなさんが手伝いに来てくださいました。みなさんは普段から手話を学ばれているので、児童、生徒たちとコミュニケーションがとれ、会話ははずみ、すぐにうちとけて仲良くなっておられました。

少人数で学ぶろう学校の子どもたちにとって、学校外の方との交流は、将来の社会的自立にもつながる貴重な経験となります。今回のように学生のみなさんと自然にコミュニケーションしながら交流できたことは、子どもたちの経験の幅を広げることに繋がったと思います。今後もこうした機会をもっと作っていけるとよいと思います。本当にありがとうございました。

松本ろう学校 上嶋 太先生

活動
その3

NPO法人
松本市聴覚障害者
社会参加支援協会との交流

- 耳の日フェスティバル運営手伝い
- デイサービス「陽だまり」参加
～聴覚障がい者との交流～

活動
その4

実際に手話を
学ぼう!感じよう!
手話学習

聴覚障がい者である山岡さんから
実際に手話を学んでいます。



私たちのこれから NEXT STAGE!! >>>

「学び」から「啓発」へ

れんげ草の皆さんには、手話が未熟な私たちをいつも温かく受け入れていただいています。手話ができなくても身振り手振り表情など、色々な方法でコミュニケーションがとれることを学びました。れんげ草の皆さんに感謝しながら、今までの私たちの学びを健聴者に啓発していけたらと考えています。また、れんげ草の皆さんと共同で何かイベントを開催したいと思っています。

れんげ草担当 (Sign リーダー)
市田 祥子 (3年)

はと祭での交流

松本ろう学校の「はと祭」の準備を通じて、初めて生徒さんたちと交流しました。一緒に遊んだり作業していくなかで、それぞれに合ったコミュニケーションの取り方があることに気づきました。また、生徒さんたちが、はと祭成功のために一生懸命努力し、それぞれの発表を成功させている姿に感動しました。今回の学びを活かして交流する機会を企画・開催したいと思っています。

ろう学校担当 矢崎 祥子 (3年)

学びの場 NPO

デイサービス「陽だまり」は、聴覚障がい者に重複し視覚や体に障がいをもつ方々との交流の中から、実際に皆さんがどんな事で困っているのかを学ばせていただいています。昨年度3月の耳の日フェスティバルでは実行委員会に参加し、聴覚障がい者と健聴者が交じって行う会議で、伝えることの難しさを感じました。今後も、積極的に活動に参加し学びを得たいと思います。

NPO 担当 原 侑子 / 中野 未来 (3年)



地域発

地域から松大生へ

もしもボクは地域づくり考房『ゆめ』のこう坊デス。



考房『ゆめ』には、地域の皆さんから「学生と一緒に活動したい」「手伝ってほしい・参加してほしい」等の依頼が多数届きます。学生は各々の興味・関心・特技を活かしてこれらの地域活動に参加しています。

地域になくはない存在

おかち町市場

販売のお手伝いに5月から毎週参加させていただきました。市場に来られるお年寄りの皆さんは近く買い物をするお店がなく、交通手段もないという方が多くいらっしゃいました。その方達にとって市場はなくてはならない存在で、買い物をしなくてもお茶を飲みに来るだけでも良いというコミュニケーションの場、皆が元気にしているかを確認する場となっていました。

しかし、足腰が悪くなったり具合が悪くなり、週1回の市場にも来られない方達をどうするのか…という問題は残っています。そういった方達のために私たち若い世代は宅配などの力仕事やお年寄りの話し相手になれるのではないかと思います。

今回の活動で様々な年代の方達と関わる事ができ、たくさんのことを学びました。地域の方達が笑顔で楽しく幸せに暮らせる社会になるよう、私も少しでも貢献していきたいと思います。

平波 綾乃 (観光ホスピタリティ学科2年)



学生さんが運営スタッフの一員として

今回市場でのお手伝いで、運営スタッフのお年寄りのお客様との関わり、業者さんとの関わりを見ていただきました。市場に来られたお年寄りにアンケートをとってもらい、一人あるいは夫婦二人暮らしの方が買い物に困っている状況も知ってもらえました。市場の必要性、また運営する側の大変さや楽しさも分かってもらえたと思います。これからの活動に期待しています。

徒士町町会 三村 伊津子

お寺でサーカス～送り火の道化師～

NPO 法人アルウィズ(デイホーム楓)

様々なことに挑戦したいという思いからこのイベントに参加させていただきました。これは地域の活性化と共に、大切な人を亡くしてしまった方が少しでも元気になってもらえるように開かれたイベントです。ミニサーカスやケーキ・キャンドル移動販売、キャンドルナイトが行われました。

私は料理作りを担当し、60人分の豚汁とおにぎりを作りました。数が足りないなどのハプニングはありましたがスタッフの皆と協力し、来ていただいた方全員にふるまうことができ、喜んでいただきました。来て下さった方が少しでも楽しみ癒されて過ごしていただけていたら私も嬉しいです。

今回イベントを計画するところから関わらせていただいて本当に良い経験になりました。

永沼 亜理 (観光ホスピタリティ学科3年)

イベントボランティアをお願いして

当日は休む暇なく自分たちから仕事を見つけ、また他のボランティアさんと協力しながら楽しそうにイベントの準備をして下さいました。お客さんの喜ぶ顔の為に何をしたらよいのか、と考えながら動いてくれているなど強く感じました。人の役に立つイベントを仲間と一緒に成功させるという喜びなど、お金には換えられない経験をさせていただけたのだと思います。今後もその気持ちを忘れずに挑戦し続けていってほしいと思います。

デイホーム楓 管理者 上條 真琴

考房『ゆめ』から3つのプロジェクトが受賞

第4回松本大学地域貢献大賞決定

松本大学^{まつもと}“梓乃森祭”において、10月20日(日)に選考会が行われました。

松本大学は「地域を生かす、人づくり大学」として地域に根ざした大学です。文部科学省の平成25年度「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に全国各地の大学が申請した319件から52件が選定されましたが、その中の一つに松本大学が申請した『地域社会の新たな地平を拓く牽引力、松本大学』が選ばれています。そんな地域貢献活動が盛んな環境で取り組まれている活動を、学生たちが外部の審査員にプレゼンテーションでアピール。その中から最も優秀だと認められた活動に今年度の大賞が贈られました。

第4回となる今年は12団体がエントリーし、「クローン病の患者会のサポートを通して」をテーマに活動してきた健康栄養学科の藤岡ゼミナール4年が見事大賞を受賞しました。このほか、5つの賞のうち、地域づくり考房『ゆめ』の学生プロジェクトからエントリーした3団体が、見事3賞に輝きました。



ヘルシーメニュー
「食を通じた新村地域との交流」
ものぐさ太郎賞

ええじゃん栄村
「食べて栄村を応援しよう!!」
後援会長賞



信濃X
「Code for Matsumoto」
大学祭実行委員会 特別賞

地域貢献大賞選考会を聴講して

学生は学んだことを活かして被災地支援、食のこと、スポーツ健康、環境問題など様々な分野で、地域に根差した実践活動を行っていました。子どもから高齢者まで幅広い年代の、必要とする人の側に立ち、自分たちの思いが実現するよう活動していて関心しました。

また、発表者全員、質問者の問いに対して、「ありがとうございます」と必ず言うてから説明に入っていたのには驚きました。

塩尻市 中原 建文

学生ゆめ



ゆめひろば in 梓乃森祭

10月19日(土)、20日(日)に行われた松本
大学祭「梓乃森祭」で、学生と地域の方々・O
B・OGと創る交流の場、「ゆめひろば」が開催
されました(∧∧)!

各ブースを担当する方々のこだわりや、来場
者の様子をゆめ通信編集委員が紹介します。

午前中で完売!



ベーカリー麦の穂

取材陣が着く頃にはもう完売! 手に取りやすい値段と中身ま
でこだわったパンは、老若男女に大人気(∧_∧*) 中でも人気は
塩尻特産の「あやみどり」という大豆を使った新商品「あやみど
りそばろパン」。皆さんもぜひ一度食べてみては?



地元を味わう

築夢屋プロジェクト

地元の安心安全な野菜や加工品を販売。その時期の旬の
モノを扱うのがこだわり! 新村さんの味噌せんべいや、今
が旬のシナノゴールド・シナノスイートが人気でした(∧∧)



こころを込めて
焼いています

有明のパン屋さん

毎週月曜日に、大学に焼きたてのパンを届けているパン屋さ
ん。パンの具は、自家栽培の野菜を使うなど、食材へのこだわり
が感じられました(´ω`) 販売時にもお客さんとの会話を大切に
する、あたたかいパン屋さんです。

食べて栄村を
応援しよう!



ええじゃん栄村

栄村復興のために地元の特産品を使った商品を開発、販
売! においしい強い行者にんにくを使ったクラッカーやせん
べいの商品開発は大変苦労したそうです。お客さんは試
食をしながら買い物を楽しんでいました♡

細部まで
こだわった
手づくりの品



コムハウス

さまざまな障がいを持った方々が作っているグリーティング
カード・ハガキ・メモ帳などを販売。どれも手が込んでいて、お
客さんは「どうやって作ったの!?'と楽しそうに商品を選んで
いました♪

今年もいよいよ残りわずか。一年はあっという間ですね。
寒さの厳しい季節になるので、みなさん体調には気を付けましょう。
今回の『学生ゆめ』は、大きな盛り上がりを見せた松本大学祭「おずさの もり さい梓乃森祭」での、
考房『ゆめ』の活動「ゆめひろば」を紹介します！



子供たちにも
大人気！



第2コムハウス・ゆい

地域の方と障がいのある方で作った農作物販売と利用者家族の創作品の展示。普段あまり買うことのない食用ほおずきや、一本ねぎなども販売されていました(^▽^) ナベしきや箸置き作りの体験は子供たちに大人気でした！

まちカレin松本の
活動紹介



松本大学まちカレ実行委員会

今年の3月に行われた「全国まちづくりカレッジ in 松本」の開催内容の報告と、9大学が参加したプレゼンテーション・マラソンの動画を公開。さまざまな大学の学生が、熱心にまちづくりに取り組んでいる様子を知ることができました☆

人情あふれる



さわらびの会（新村地区）

あたたかいお茶と一緒に、おふくろの味を無料で提供…だけではなく、そこには素敵な笑顔で迎えてくれる、サービス精神旺盛なさわらびの会の皆さんがいました。学生や地域の方が集まり、楽しそうに談笑していました。

“もったいない”を
再生する



松本市消費者の会波田地区

使わなくなった食器を無料で配布したり、再生食器の販売をしたりしていました。来場者は「〇〇料理に合うね」と話がはずみ、交流の場ともなっていました！“もったいない”という気持ちがたくさんの人に伝われば良いですね(^ ^)

聴覚障がいを知る



Sign

聴覚障がい者の方とカゴ作りを通して交流できる体験ブース。参加者は「難しい」「楽しい」など手話を使いながら、にぎやかに交流していました(^o^) 私は取材中に、手話で名前を覚えてもらいました♪

Hot♡
ひといき豚汁



ヘルシーメニュー

寒い中、今年も大人気だった豚汁!! 新村産の野菜をふんだんに使い、栄養のバランスまで考えられていました(*ω*) 心も体も Hotになれる豚汁でした!!

※申し込み・問い合わせは地域づくり考房『ゆめ』まで

販売

ええじゃん栄村が
道の駅「今井恵みの里」で
販売をします!

長野県北部地震で被災した栄村を応援しようと、栄村特産の行者にんにくを使ったお菓子を共同開発し、販売しています。当日は“栄ゆめせんべい・行者さんのつえんぼ・おばあちゃん手作りのさるぼぼ”の販売と栄村の紹介をします。

- 日 時：1月12日(日)、13日(月) 9:00~15:00
- 場 所：道の駅「今井恵みの里」

スタッフ
募集ブロックリユースプロジェクト
(ブロプロ)

各家庭で不要になったブロック(レゴ)などを集め、ひとり親家庭などにプレゼント。また、販売をしてその利益をNPOなどに寄付し社会貢献に活かします。

- 内 容：不要になったブロックを回収・選別し洗浄・ラッピングし、個人や施設にプレゼント・イベントなどで販売しその利益を寄付 他

※皆でアイデアを出しながら目的に向かっていきます。

- 詳細はお問い合わせ下さい。

ボランティア
募集諏訪湖畔病院「ざ・くるま座」
レクリエーションボランティア募集

通所、入所の高齢者の皆さまに作業療法の一環のレクリエーションとして、50分間のステージ発表をお願いします。

明るいう方、高齢者と一緒に楽しめる工夫のできる方を待っています!(例:混声合唱、合奏、人形劇、マジックショーなど)

- 日 時：月・火・水・金・土曜日のいずれかの14:00~14:50
- 場 所：諏訪湖畔病院「ざ・くるま座」
- 詳細はお問い合わせ下さい。

つ ぶ や き

東京で行われた全国まちづくりカレッジに初めて参加しました。フィールドワークでは、江東区をグループごと歩き、街の良いところと悪いところを探し、街の活性化について考えました。各大学のプレゼンテーションでは、地域貢献活動には様々な方法があることを学びました。

私は地域づくり考房『ゆめ』の学生プロジェクト“キッズスポーツスクール”のリーダーとして活動しています。プレゼンテーションでは、広報の仕方等を学びました。また、遠く台湾から参加された学生もおり、地域との繋がりを大切にしようと考えている学生がたくさんいることも実感し、たくさん刺激を受けました。

この研修を通して、地域活性には多くの人の協力がなくては実現できないのだと改めて分かりました。この研修で学んだことをプロジェクトの仲間と共有し、今後の活動に活かしていきたいと思います。

廣岡 帆晴 (スポーツ健康学科2年)

松本大学と地域をつなぐ
イベント情報参加者
募集

松本大学こども広場

1歳から5歳児を対象に、親子・親同士のコミュニケーションづくりの場として、こどもあそび隊が企画運営します。

- 内 容：クリスマス会!!
ツリーをつくろう 他
- 日 時：12月14日(土) 10:00~11:30
- 場 所：松本大学 6号館 643教室
- 申込は12月9日(月)まで

参加者
募集

キッズスポーツスクール

3歳から6歳を対象に、子どもたちからだを動かす楽しさを伝えスポーツを好きになるためのサポートをします。

- 内 容：新聞紙で運動してみよう!
- 日 時：12月14日(土) 10:30~12:00
- 場 所：松本大学 第2体育館
- 申込は前日まで

提供者
募集

カンボジア復興支援

フリマネット信州では、現地での音楽教育や学習支援のために、リコーダーや鍵盤ハーモニカ(ピアノ・メロディオンなど)、学習のための文房具を寄贈する活動を行っています。ご家庭に眠っている教材がある方は、furimanet@yahoo.co.jpまでお問い合わせください。

お問い合わせ、ご意見等は下記へご連絡ください。



松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1
松本大学 7号館 2F

T E L : 0263-48-7213 (直通)

F A X : 0263-48-7216 (直通)

E-mail : community@matsu.ac.jp

U R L : http://www.matsu.ac.jp/matsumoto_u/yume/

※開館日時：火~金 9:30~18:30
月・土 9:00~16:00